

GPIO-Noiselsolator マニュアル



ハートランド・データ株式会社

〒 326-0338 栃木県 足利市福居町 361

TEL:0284-22-8791 / FAX:0284-22-8792

URL:<https://www.hldc.co.jp>

用途制限

- 次に示すような条件や環境で使用する場合は、安全対策へのご配慮を戴くとともに、弊社にご連絡くださるようお願い致します。
 1. 明記されている仕様以外の条件や環境での使用。
 2. 人や財産に大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途への使用。
- 本製品は人の生命に直接関わる装置 (*1) や人の安全に関与し公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置 (*2) などの制御に使用するよう設計・製造されたものではないため、それらの用途に使用しないでください。
 1. 人の生命に直接関わる装置とは、次のものをさします。
 - 生命維持装置や手術室用機器などの医療機器
 - 有毒ガスなどの排ガス、排煙装置・消防法、建築基準法などの各種法令により設置が義務づけられている装置
 - 上記に準ずる装置
 2. 人の安全に関与し公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置とは、次のものをさします。
 - 航空、鉄道、道路、海運などの交通管制装置
 - 原子力発電所などの装置
 - 上記に準ずる装置

免責事項

- 地震、火災、第三者による行為、その他事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断・記憶内容の変化・消失など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- 仕様書や取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 仕様書や取扱説明書に記載されている以外の操作方法によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作等から生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- お客様ご自身又は権限のない第三者（指定外のサービス店等）が修理・改造を行った場合に生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品に関し、いかなる場合も当社の費用負担は本製品の個品価格以内とします。
- 本製品の仕様書に記載のない項目につきましては、保証対象外とします。

設置上の注意

- 本製品は、風通しのよい場所に設置してください。
- 静電気の発生しやすい場所でお使いになるときには、静電気防止マットなどを使用して、静電気の発生を防いでください。
- アルコール、シンナーなどの揮発性物質のある場所や火気のある場所には設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、水に濡れやすい場所、直射日光のあたる場所、温度や湿度の変化が激しい場所、冷暖房器具に近い場所に設置しないでください。感電、火災、製品の変形や動作不良、故障に繋がる恐れがあります。

電源に関する注意

- 本製品は HDMI ケーブルにて電源供給します。濡れた手で、HDMI コネクタやその他接続するケーブルを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
 - HDMI ケーブルを取り扱う際は、次の点を守ってください。
 - * HDMI ケーブルを加工しない。
 - * HDMI ケーブルコードに重いものを載せない
 - * 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
 - * 熱器具の近くに配線しない
 - HDMI ケーブルコネクタは、根本まで確実に差し込んでください。ホコリなど異物が付着したまま差し込まないでください。
 - HDMI ケーブルを抜き挿しするときは、必ずコネクタ部分をもって抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルが傷ついて、破損の原因となることがあります。

使用上の注意

- 本製品は精密機械です。落下させたり強い衝撃や振動を与えないでください。変形、故障の原因になります。
- 煙が出たり、変なにおいや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
- 異物や水などの液体が本製品内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
- 本製品を長時間使用していると、筐体温度が上昇する可能性があります。筐体温度が高いときに長時間触れないでください。低温やけどの恐れがあります。
- 本製品の分解や改造はしないでください。
- 本製品の上に乗ったり、重いものを置かないでください。
- 本製品に付属の機器の接続や取り外しをする際は、無理に接続や取り外しをしないでください。また、確実に接続や取り外しがされていることを確認してください。故障の原因になります。
- 本製品を廃棄する場合、環境汚染を防止するために、各国の法律や地方自治体の法令などに従い、適切な分別廃棄をしてください。

目次

1	製品概要	7
1.1	製品の特長	7
1.2	使用イメージ	8
2	製品仕様	8
2.1	外観	8
2.2	電気仕様	9
2.3	対応接続方式	9
2.4	タイミングチャート	10
3	DBOX+Trace との接続	13
3.1	HDMI ケーブルの接続	13
4	ターゲット機器との接続	13
4.1	ターゲット機器からの電源供給	13
4.2	8pin プローブでの接続	14
4.3	10pin フラットケーブルでの接続	15
5	アプリケーションの設定	17
5.1	GPIO / SPI / I2C 接続設定	17
6	使用上のご注意	18
6.1	Logic Board との併用	18
6.2	ターゲットボードとの接続について	18
6.3	GPIO-NoiseIsolator の設置について	18
7	変更履歴	19

1 製品概要

1.1 製品の特長

GPIO-Noiselsolator（ジーピーアイオー・ノイズアイソレータ）は、ターゲット機器と DBOX+Trace を絶縁する為のインターフェースユニットです。DBOX+Trace 専用となります。

< GPIO-Noiselsolator 3 つの特長 >

- ターゲット機器のノイズによるトレースデータの誤検出を防止します。
ターゲット機器上の高電圧や大電流、高速動作から発生するノイズは、トレースデータの誤検出を引き起こします。アイソレーション回路により、安定したトレースデータが取得できるようになります。
- ターゲット機器や **DBOX+Trace** の設置を、より柔軟で簡単にします。
従来、8pin プローブの長さ（25 cm）により制限されていた DBOX+Trace の設置場所が、大幅に改善されます。I/F ケーブルが最長 5m まで延長できるので、設置方法・場所が制限されず、快適な作業環境が作れます。
- 手間を掛けずに、ターゲット機器とワンタッチ接続ができます。
取り付けに煩わしさのある 8pin プローブのクリップ接続以外に、フラットケーブル接続にも対応します。10pin コネクタでワンタッチ接続できるので、ターゲット機器との接続が手間なく簡単になります。

1.2 使用イメージ

- 10pin フラットケーブルによる接続

ターゲットボード上に適合するピンヘッドを実装していただくと、8pin プローブよりも簡単に脱着ができるようになります。



- 8pin プローブによる接続

ターゲットボード上に、チェック端子がある場合や配線が引き出されている場合に、8pin プローブのクリップでつまむことができます。



2 製品仕様

2.1 外観



2.2 電気仕様

名称	説明	MIN	TYP	MAX	UNIT
VIH	High-level Input voltage (Hi レベルの閾値)	1.4	1.67	-	V
VIL	Low-level Input voltage (Lo レベルの閾値)	-	1.23	1.4	V
VDD	External Power Supply voltage (外部からの電源供給)	3.3	-	5	V
RIN	Input resistance (入力抵抗)	-	100	-	K Ω

入力信号の電圧に合わせて、外部から電源を供給します。信号レベルが1.8V～3.3Vの範囲の電圧になる場合、GPIO-NoiselsolatorのVDDピンに3.3Vを供給してください。

2.3 対応接続方式

GPIO-Noiselsolatorは、以下の接続方式に対応しています。

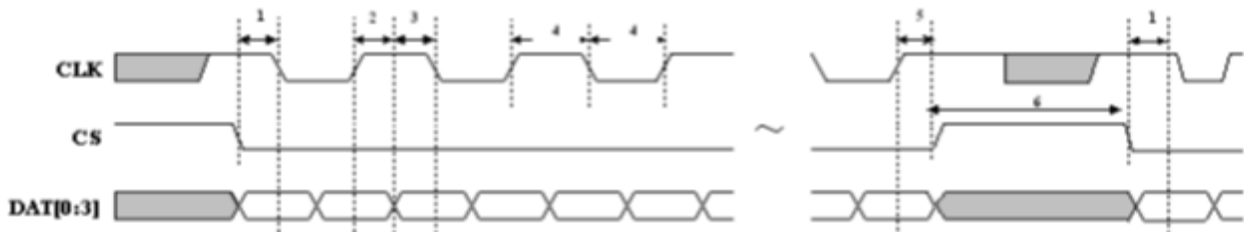
- **GPIO** 接続:GPIO (4bit/2bit) バス出力方式での接続です。
- **SPI** 接続:SPI 出力バス方式での接続です。
- **I2C** 接続:I2C バス方式での接続です。

注意

GPIO-Noiselsolatorで接続した場合、変数値書き換え機能はご使用いただけません。

2.4 タイミングチャート

2.4.1 GPIO_4bit / GPIO_2bit 接続



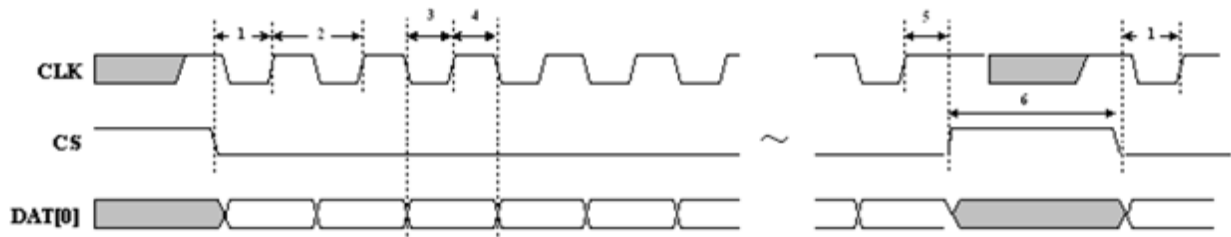
No	説明	MIN	MAX	UNIT
1	CS 立ち下り ~ CLOCK エッジの変化タイミング	27	-	ns
2	データホールドタイム	27	-	ns
3	データセットアップタイム	27	-	ns
4	CLOCK スイッチング周期	54	-	ns
5	CLOCK ~ CS 立ち上がり	40	-	ns
6	CS Hi 期間	27	-	ns

- データは 4bit パラレル転送とし、以下の項目順序で MSB First 出力とする。
- ラッチのタイミングは、CLK の立ち上がりと立ち下りの両エッジ。
 1. `_TP_BusOut()` の引数 `dat` (16bit)
 2. `_TP_BusOut()` の引数 `addr` (0~24bit)
 - 4bit の場合は、`addr` のビット数は可変長 (0/4/8/12/16/20/24) とし、24bit に満たない分の上位ビットはゼロとして扱われる。
 - 2bit の場合は、`addr` のビット数は可変長 (0/2/4/6/8/10/12/14/16/18/20/22/24) とし、24bit に満たない分の上位ビットはゼロとして扱われる。

注意

CS は、テストポイント出力時以外は、常に High になるようにしてください。
 CS が、テストポイント出力時以外で Low にならないように注意してください。
 CS が High の区間では、CLK を変化させないでください。

2.4.2 SPI 接続



No	説明	MIN	MAX	UNIT
1	CS 立ち下り ~ CLOCK エッジの変化タイミング	27	-	ns
2	CLOCK スイッチング周期	54	-	ns
3	データセットアップタイム	27	-	ns
4	データホールドタイム	27	-	ns
5	CLOCK ~ CS 立ち上がり	40	-	ns
6	CS Hi 期間	27	-	ns

- データは、1bit シリアル転送とし、以下の項目順序で MSB First 出力とする。
- ラッチのタイミングは、CLK の立ち上りエッジ。

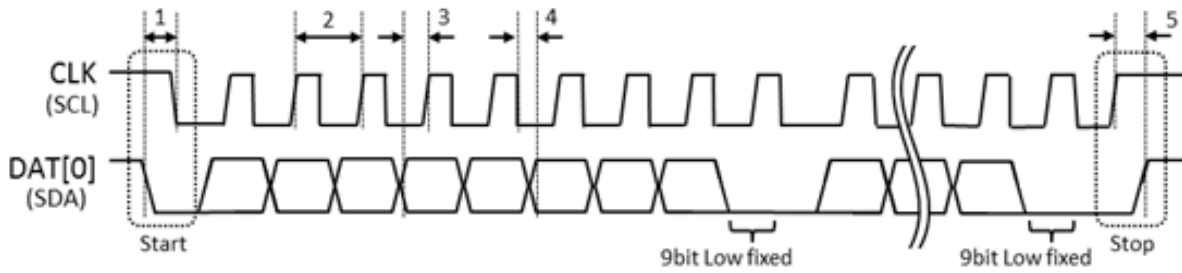
1. `_TP_BusOut()` の引数 `dat` (16bit)
2. `_TP_BusOut()` の引数 `addr` (0~24bit)

- `addr` のビット数は可変長とし、24bit に満たない分の上位ビットはゼロとして扱われる。

注意

CS は、テストポイント出力時以外は、常に High になるようにしてください。
 CS が、テストポイント出力時以外で Low にならないように注意してください。
 CS が High の区間では、CLK を変化させないでください。

2.4.3 I2C 接続



No	説明	MIN	MAX	UNIT
1	スタートコンディション (SDA の立ち下り～SCL の立ち下りまで)	27	-	ns
2	CLK 周期	54	-	ns
3	データ (SDA) のセットアップ時間	27	-	ns
4	データ (SDA) のホールド時間	27	-	ns
5	ストップコンディション (SCL の立ち上がり～SDA の立ち上がりまで)	27	-	ns

- データは 1bit シリアル転送とし、以下の項目順序で MSB First 出力とする。
- 9bit 目は Low 固定で出力する。
- ラッチのタイミングは、CLK の立ち上りエッジ。

1. `_TP_BusOut()` の引数 `dat` (2byte)
2. `_TP_BusOut()` の引数 `addr` (1~3byte)

- `addr` のビット数は可変長とし、3byte に満たない分の上位ビットはゼロとして扱われる。

注意

データ 9bit 目は、かならず Low になるように出力してください。
I2C バスのフォーマットを使用しますが、DBOX+Trace から ACK 信号を出力しません。
そのため、プルアップ抵抗によるオープンドレイン出力ではなく、
プッシュプル出力設定ができるポートを使用してください。

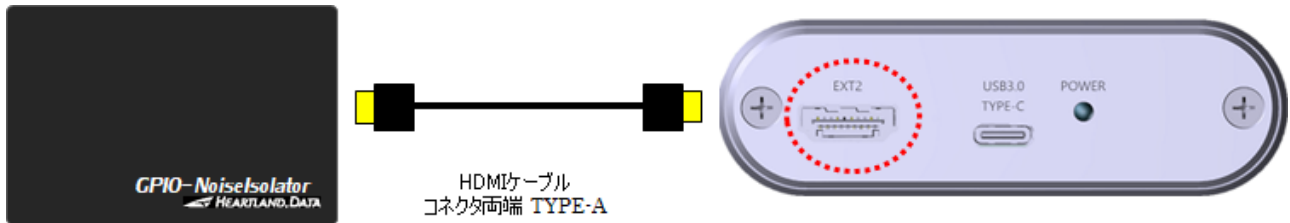
注意

DT+Trace のトレースデータ出力専用の I2C バス (汎用ポート) を用意してください。
スレーブアドレスを出力しませんので、DBOX+Trace を接続する I2C バスには、
他のデバイスは接続しないでください。
同様に、他のデバイスとの通信で使用している I2C バスは、トレースデータの出力先としては使
用できません。

3 DBOX+Trace との接続

3.1 HDMI ケーブルの接続

- DBOX+Trace の [EXT2] ポートに、HDMI ケーブルを接続します。



4 ターゲット機器との接続

4.1 ターゲット機器からの電源供給

GPIO-Noiselsolator とターゲット機器の接続の際に、信号ラインとは別に、ターゲット機器の電源ラインと GPIO-Noiselsolator の VDD ラインを接続する必要があります。

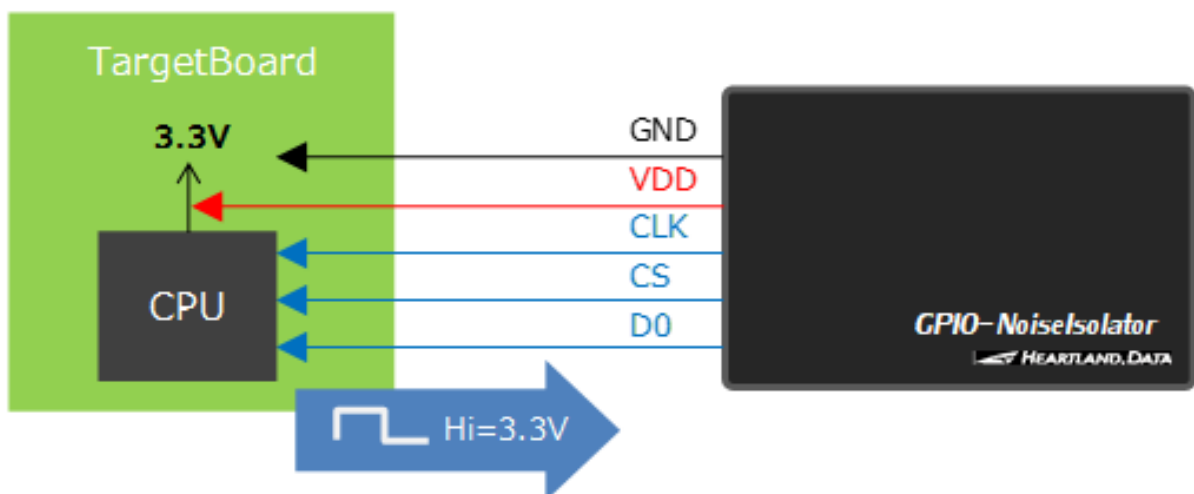
VDD ラインには、ターゲットの出力信号の Hi 電圧に合わせて、ターゲット機器 (基板) の電源ラインを接続してください。

- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 : 1.8V~3.3V ⇒ VDD=3.3V
- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 : 3.3V 以上~5V ⇒ VDD=5V

VDD、信号ラインを含むピン配置は、以下の項目で詳細を説明しています。

【4.2 8pin プローブでの接続】 , 【4.3 10pin フラットケーブルでの接続】

ex) SPI 接続



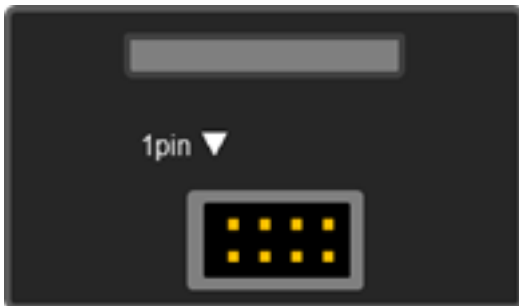
4.2 8pin プローブでの接続

ターゲットとの接続に、8pin プローブを使用する場合について説明します。



4.2.1 ピンヘッダのピン配置

GPIO-Noiselsolator のピンヘッダの左上が、8pin プローブの1ピンとなります。



▼ GPIO-Noiselsolator 側のピンヘッダ配置

No.	GPIO4bit 接続	GPIO2bit 接続	SPI 接続	I2C 接続
1	GND	GND	GND	GND
2	CLK	CLK	CLK	CLK
3	CS	CS	CS	使用しない
4	VDD	VDD	VDD	VDD
5	D0	D0	D0	D0
6	D1	D1	使用しない	使用しない
7	D2	使用しない	使用しない	使用しない
8	D3	使用しない	使用しない	使用しない

VDD は、ターゲットの出力信号の Hi 電圧に合わせて、ターゲット基板の電源ラインを接続してください。

- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 1.8V～3.3V VDD=3.3V
- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 3.3V 以上～5.5V VDD=5V

4.3 10pin フラットケーブルでの接続

ターゲットとの接続に、10pin フラットケーブルを使用する場合について説明します。

ターゲットボード上に、10pin フラットケーブルに対応するピンヘッドを実装することで、ターゲットボードとの接続が容易になります。

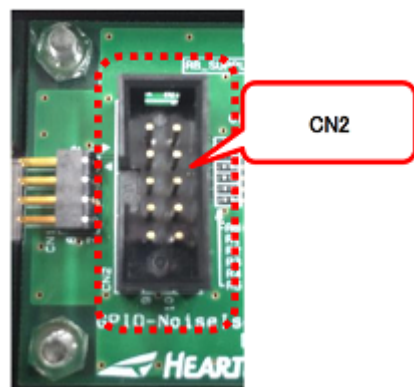


10pin フラットケーブル メーカー：Linkman 型番：216310P3

GPIO-Noiselsolator 本体ケースの上蓋を外します。下図の隙間に指を掛けて、開くようにして外します。



本体ケースの上蓋を外して、[CN2] のピンヘッドに、フラットケーブルのコネクタを差し込みます。

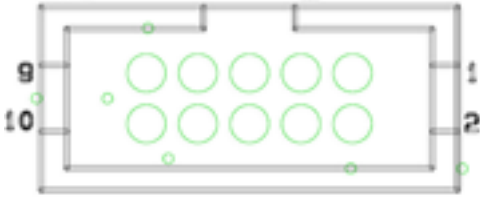


上蓋を取りつけて、使用します。



4.3.1 ターゲットボード側に実装するコネクタ仕様

- フラットケーブル側のコネクタに適合すれば、他のメーカーでも使用可能です。
- 10pin ピンヘッダ仕様：10 極 / 2.54 mmピッチ
 - 推奨 メーカー：Linkman 型番：217010SE
- ピン配置の設計は、【4.3.2_ピンヘッダのピン配置】を参考にしてください。 9pin と 10pin は、未使用の為、配線不要です。



ターゲットボードのピン配置

4.3.2 ピンヘッダのピン配置

▼ GPIO-Noiselsolator 側のピンヘッダ配置

No.	GPIO4bit 接続	GPIO2bit 接続	SPI 接続	I2C 接続
1	GND	GND	GND	GND
2	VDD	VDD	VDD	VDD
3	CLK	CLK	CLK	CLK
4	CS	CS	CS	使用しない
5	D0	D0	D0	D0
6	D1	D1	使用しない	使用しない
7	D2	使用しない	使用しない	使用しない
8	D3	使用しない	使用しない	使用しない
9	N.C	N.C	N.C	N.C
10	N.C	N.C	N.C	N.C

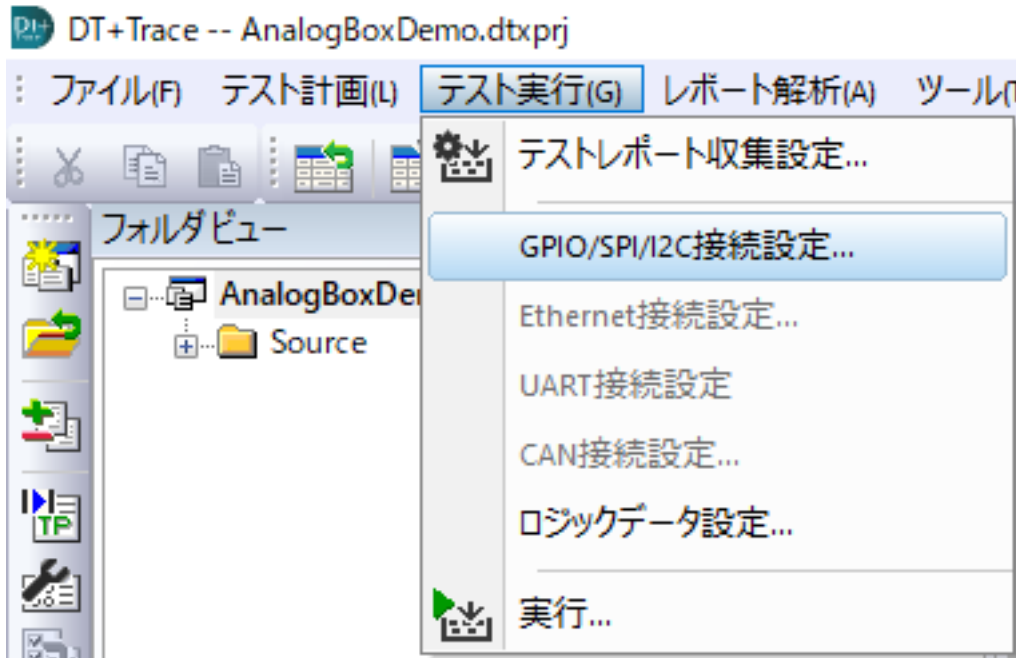
VDD は、ターゲットの出力信号の Hi 電圧に合わせて、ターゲット基板の電源ラインを接続してください。

- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 1.8V～3.3V VDD=3.3V
- ターゲットの出力信号の Hi 電圧 3.3V 以上～5.5V VDD=5V

5 アプリケーションの設定

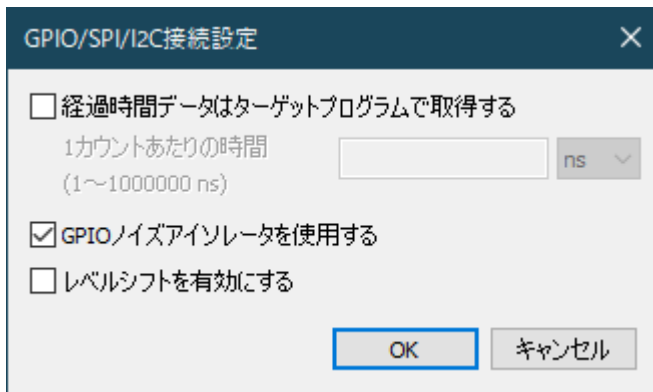
5.1 GPIO / SPI / I2C 接続設定

1. アプリのメニューの「テスト実行」→「GPIO/SPI/I2C 接続設定」をクリックします。



DT+Trace アプリ画面での説明になります。

2. 「GPIO ノイズアイソレータを使用する」にチェックして、OK をクリックします。



3. この設定後に、テスト実行をすると、DBOX+Trace に接続された GPIO-NoiseIsolator が有効になり、データ取得できるようになります。

注意

GPIO-NoiseIsolator を使って、ターゲット機器と接続している状態で、チェックが OFF でテスト実行した場合は、データが取得できません。

6 使用上のご注意

6.1 Logic Board との併用

GPIO-Noiselsolator を介して取得されるトレースデータは、信号変換処理の遅延によって、DBOX+Trace に入力されるまでに、約 3.8us の遅延が生じます。そのため、「Logic Board から入力される信号の取得タイミング」に対して、「トレースデータの取得タイミング」に遅延があることを考慮して、検証作業を行ってください。

6.2 ターゲットボードとの接続について

DBOX+Trace を電源 ON 状態にしてから、GPIO-Noiselsolator とターゲット機器を接続してください。

6.3 GPIO-Noiselsolator の設置について

8pin プローブ、または 10pin フラットケーブルを接続したときに、ターゲット機器との接続部分に対して負荷が掛からないように、GPIO-Noiselsolator 本体を、ターゲット機器およびその近傍でテーピングするなどして、なるべく固定することを推奨します。

7 変更履歴

日付	バージョン	変更内容
2020/12/21	1.0.0	新規作成
2025/01/31	1.0.1	タイミングチャートの項目を修正

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じたハートランド・データ株式会社製品をご購入頂く為の参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてハートランド・データ株式会社が所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他の応用回路例の使用に起因する損害、第三者が所有の権利に対する侵害に関し、ハートランド・データ株式会社は責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、その他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ハートランド・データ株式会社は予告なしに本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ハートランド・データ株式会社製品のご購入に当たりますは、事前にハートランド・データ株式会社又は商社へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ハートランド・データ株式会社 ホームページ (<https://hldc.co.jp/>) 等を通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に作成したのですが、万一、本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ハートランド・データ株式会社はその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断して下さい。ハートランド・データ株式会社は、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられる事を目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際にはハートランド・データ株式会社または商社へご照会ください。
7. 本製品は、万全の注意を払って作成されておりますが、ご利用になった結果については、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
8. Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
9. その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは、該当する各社の商標または登録商標です。
10. 本資料の転載、複製については文書によるハートランド・データ株式会社の事前の承諾が必要です。
11. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたらハートランド・データ株式会社または商社までご照会ください。